

ニヨロ語の婉曲・比喩表現

梶 茂 樹

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

Euphemistic and figurative expressions in Nyoro

KAJI, Shigeki

Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University

In all the languages I ever studied I found euphemistic and figurative expressions. Maybe all natural languages have such expressions. In this article, I will present euphemistic, figurative and idiomatic expressions I have found in Nyoro, a Bantu language spoken in Western Uganda. Nyoro is a relatively big language with its speakers of about 700, 000, and I have been doing the description of this language since 2009. The data presented here were obtained during my lexical investigation as well as through an inquiry to the topic. It goes without saying that they are not exhaustive; it will take much more time to do a thorough investigation, and the result would be a thick book. This article shows an outline of research.

After the introduction, Section 2 deals with euphemistic expressions. These are words typically like those which indicate genital organs, which people avoid to utter in public, for which they substitute indirect words. In Section 3 figurative expressions are presented. They are expressions which have come to acquire idiomatic meanings. Sometimes the meaning cannot be expressed in any other ways. They come near proverbs, but proverbs have their own features and will be dealt with in a separate article.

キーワード：ニヨロ語, 比喩, 間接表現, 婉曲表現, 慣用表現

Keywords: Nyoro, euphemism, indirect expression, figurative expression, idiomatic expression

1. はじめに
2. 間接・婉曲表現
3. 比喩・慣用表現
4. 終わりに

1. はじめに

自然言語には、恐らくどんな言語にも婉曲・比喩表現はあるものと思われる。これは未知の言語を長らく調査してきた者としての実感である。未知の言語は通常、語彙調査表に基づいて単語の調査から始める。これは必ずしも単語を集めることだけが問題ではなく、単語の中に現れる音韻、形態、統語、意味などの情報も同時に集めているのである。

語彙調査表は通常、身体部分名詞から始まるから、数日のうちに性器や性に関する表現をインフォーマントに言ってもらわなくてはならなくなる。これは本当に調査者の罪作りな部分だと思うが、例えば「ペニ〇」という単語が出てくると、名詞に形容詞が続いた時どういう文法的な一致が起こるかを知るため、あるいは、そこにどのような声調の変化が起こるかを知るため、しばしば「私の」という所有形容詞を付けて言ってもらう。これはとりわけ、その言語と近い系統にある言語を前もって調査してある場合、その言語の文法がある程度わかっているため、かなり先走った調査が可能となるからである。

インフォーマントは男性の場合も女性の場合もあるが、女性に「私のペニ〇」「あなたのペニ〇」「彼のペニ〇」などと言ってもらうのは本当に酷だ。これが、「私のオマ〇〇」「あなたのオマ〇〇」「彼女のオマ〇〇」となった日には最悪であるが、それでも、今までの経験では、言ってくれなかった人は1人もいなかった。若い男性で恥ずかしがってなかなか言わない人はいた。しかし女性を含め、これで気分を害するとか、憤慨するという人は皆無である。それは、インフォーマントが、こちらが面白半分では聞いているのではないことをすぐ理解するからである。また2人だけの場であり、他に誰もいないという気楽さもあるであろう。

しかしながら、人前となると別である。日本語でも同じように、人前では、あるいは人に面と向かっては言えない、あるいは言いづらい表現はある。そういう場合、一体どのような婉曲表現、間接表現を用いているのか気になるのである。また、比喩的にしか表現できないものや比喩を用いることによって効果的に表現できるものもある。

本稿は筆者が2009年からウガンダ西部で調査を行っているニョロ語の婉曲・比喩表現、さらには慣用的表現をまとめたものである。語彙調査(Kaji, to prepare 参照)で引っかかってきたものもあるし、また日常の会話時に記録したものもある。また、少しばかり体系的に訊いた部分もある。

婉曲・比喩表現で筆者にとって、とりわけ印象深いことは、コンゴ(当時ザイール)のモンゴ族の太鼓言語を調査していた時のことである。例えば、子供が生まれたということを太鼓でみんなに知らせる場合、叩かれたメッセージを録音し文字化しても、どこにも子供が生まれたという表現はないのである。あるのは、例えば「水蛇は湖を離れない」という文である。これを聞いたなら、「ああ、子供が生まれたんだ」と理解しなければならない。水蛇は赤ちゃんで、湖はお母さん

である。水蛇が湖に抱かれている時心地よいように、赤ちゃんもお母さんに抱かれている時心地よいのである。従って「水蛇は湖を離れない」という表現は、正確には、赤ちゃんは無事生まれてお母さんに抱かれてすやすや眠っていると理解しなければならないのである。

アフリカ人はしばしば、バカな奴はダメだと言う。バカな奴は「水蛇は…」と言われれば、「ああ、水蛇のことか」と思って生きていく。しかし、それでは本当に生きたことにはならない。アフリカの言葉は、比喩・間接表現に満ちている。本稿が、このほとんど知られることのないアフリカ諸語の奥深さの一端を明らかにできたとしたら望外の喜びである。

本稿は、ウガンダ西部に話されるニョロ語の婉曲・比喩表現および慣用表現を扱うが、そのすべてを記録しているわけではない。もし本格的にやろうとすれば、1冊の分厚い本ができるであろう。そして時間もかかるであろう。本稿はあくまでもその研究の方向性を示すだけである。

ここで間接・婉曲表現（第2節）というのは、本来の語はあるのだけれども、理由は様々であるが、その語を用いずに他の表現を用いるものである。それに対して、比喩・慣用表現（第3節）というのは、通常表現が別の慣用的意味を持つに至ったものである。成句的表現が多く、格言、諺に近くなる。比喩・慣用表現の中には、本来の直接的表現がないか、ほとんど用いられないというものも多い。

2. 間接・婉曲表現

2.1. 身体部分

身体部分にはタブーが多い。性に絡むからである。まず、性器であるが、ニョロ語では(1)から(5)のような婉曲表現がある。

(1) ペニス

- a.[直接語 1] embôro 9, 10¹ 「人間のペニス」
- b.[直接語 2] enfûli 9, 10 「人間、動物のペニス」
- c.[婉曲語 1] obusáija 14 「男らしさ」 < omusáija 1, abasáija 2 「男」
- d.[婉曲語 2] omukîra 3, emikîra 4 「しっぽ、尾」
- e.[婉曲語 3] akanyánsî 12, obunyánsî 14 「草」 < ekinyánsî 7, ekinyánsî 8 「草」

¹ ニョロ語を含むバンツ系諸語は名詞がいくつかのクラスに分かれている。ニョロ語には20のクラスがあり、クラス1とクラス2、クラス3とクラス4のように2つのクラスがペアになり、前者が単数形、そして後者が複数形を示す（名詞が2つ並んでいる時は、左が単数形、右がその複数形である）。ただクラス9とクラス10のように単復同形もある。また単数形しかないもの、逆に複数形しかないものもある。名詞の後の数字はその名詞のクラス番号である。ニョロ語の音素は、子音/p, b, t, d, k, g, ŋ, ç, β, f, (v), s, z, h, r, rr, m, n, ŋ, j, w/, 母音/i, e, a, o, u/である。以下の表記では/ŋ/をch, /ç/をj, /ŋ/をny, /β/をb, /b/をbb（ただし鼻音の後ではb）、そして半母音/j/をyで表記している。母音の上のアクセント記号は、鋭角アクセントが高声調、山形アクセントが下降調、逆山形アクセントが上昇調、そして何も付けていない母音は低声調である。なお動詞を単独で提示する場合は不定形の場合が多いが、その構造はoku-語基-aである。

f. [婉曲語 4] akasôro 12, obusôro 14 「小動物」 < ekisôro 7, ebisôro 8 「動物」

g. [例文] Otazamisá akasôro! 「チンチンで遊ぶんじゃない。」

N.B. ニョロ語で「ペニス」は(1.a) embôro 9, 10 である。(1.b) enfûli 9, 10 も用いられるが, embôro 9, 10 が人間のペニスのみを指すのに対して, enfûli 9, 10 は人間のみならず動物のペニスをも指す。いずれにせよ, この2語は直接的すぎて, 人前では口にできない。いくつかの表現が代わりに用いられる。まず(1.c) obusáija 14 「男らしさ」であるが, これは omusáija 1, abasáija 2 「男」の接頭辞の部分クラス 14 の obu- に変えたもので, 本来の意味は「男らしさ」である。これを「ペニス」の婉曲表現として用いる。(1.d) omukîra 3, emikîra 4 「しっぽ, 尾」も婉曲表現ではあるか一種のスラングである。長いところからの連想である。(1.e) akanyá:nsî 12, obunyá:nsî 14 「草」というのも婉曲表現である。「しっぽ, 尾」と同じように長くてピンと立っていることからの連想である。元々の語は ekinyá:nsî 7, ebinyá:nsî 8 「草(一般名)」で, クラス 7, 8 の接頭辞 eki-, ebi- をクラス 12, 14 の aka-, obu- に変えている。接頭辞 aka-, obu- は縮小接頭辞で, 接頭辞をこれに変えることにより「小さい」「丁寧」の意味を出す。従ってこの akanyá:nsî 12, obunyá:nsî 14 「草」は丁寧な表現としてのペニスである。もちろん, akanyá:nsî 12, obunyá:nsî 14 には丁寧な意味での「草」の意味もある。(1.f) akasôro 12, obusôro 14 「小動物」は ekisôro 7, ebisôro 8 「動物」から接頭辞をクラス 12, 14 の aka-, obu- に変えて作り出している。字義的には「小動物」ということであるが, これは子供のペニスのことである。恐らく, 小動物のように形を変えるところからの命名であろう。男の子は自分のペニスをいじって遊ぶことがあるが, akasôro 12, obusôro 14 はとりわけそのような時に親が叱る時用いる。(1.g)の例文参照。

(2) 睾丸

a. [直接語] iigôsi 5, amagôsi 6

b. [婉曲語 1] eki:jukûru 7, ebi:jukûru 8 < omwi:jukûru 1, abaijukûru 2 「孫」

c. [婉曲語 2] ekijâgi 7, ebijâgi 8 < orujâgi 11, enjâgi 10 「小型のナス」

d. [婉曲語 3] ekinêge 7, ebinêge 8

N.B. 睾丸は機能, 形状から(2.b-d)のような婉曲表現がある。(1.b) eki:jukûru 7, ebi:jukûru 8 は名詞 omwi:jukûru 1, abaijukûru 2 「孫」から, その名詞のクラスを 7, 8 にすることによって派生している。睾丸は自分にとって孫のようなものである。(1.c) ekijâgi 7, ebijâgi 8 は, 「小型のナス」を意味する orujâgi 11, enjâgi 10 からの派生である。やはりクラス 7, 8 においている。orujâgi 11, enjâgi 10 は小さく, せいぜいピンポン玉ぐらいの大きさである。(1.d) ekinêge 7, ebinêge 8 も同様の婉曲表現であるが, その来源はわからない。睾丸の意味にしか用いない丁寧語である。

(3) 肛門

- a.[直接語] ekítú:rí 7, ebitú:rí 8
- b.[婉曲語 1] ekibûnu 7, ebibûnu 8 「尻」
- c.[婉曲語 2] há:nsí 16 「下, 下部」
- d.[例文] Há:nsí niha'ndúmâ. 「下 (= 肛門) が痛い。」

N.B. 肛門も人前で口に出すことを憚られる語である。(3.b) ekibûnu 7, ebibûnu 8 は本来「尻」を指す語であるが、肛門の婉曲表現として用いられる。(3.c) há:nsí 16 は、本来「下, 下部, 地面」を指す語であるが、肛門の婉曲表現として一般的である。「肛門が痛い。」なんてことは口が裂けても言えない。その代わり、(3.d) Há:nsí niha'ndúmâ.のように、「下(しも)が痛い。」と言う。

(4) 膣, 女性性器

- a.[直接語] enâma 9, 10
- b.[婉曲語 1] obukâzi 14 「女性らしさ」 < omukâzi 1, abakâzi 2 「女」
- c.[婉曲語 2] obusûra 14 「性器」
- d.[婉曲語 3] itâma 5, amatâma 6 「頬」

N.B. (4.a) enâma 9, 10 「膣, 女性性器」も全く人前で口に出すことができない。(4.b) obukâzi 14 は omukâzi 1, abakâzi 2 「女」から接頭辞をクラス 14 の obu-に変えることによって派生している。(1.c) obusâija 14 「男らしさ」と同様の派生である。従って、この語は、本来、「女性らしさ」を示す抽象語であるが、enâma 9, 10 が全く口に出せない語なので、この obukâzi 14 が通常「女性性器」の意味で用いられる。そして「女性らしさ」は omukâzi 1, abakâzi 2 「女」の接頭辞をクラス 5 にして ikâzi 5 と言うことが多い。(4.c) obusûra 14 「性器」も婉曲表現である。obusûra 14 は単に本来は「性器」と言っているにすぎないが、これは婉曲表現としては通常「女性性器」obusûra bw'o'mukâzi のみを指す。(4.d) itâma 5, amatâma 6 「頬」は比喩表現である。頬のフワフワした部分が女性性器と対比されたのだろう。

(5) 恥丘

- a.[直接語] ekî:nyi 7, ebî:nyi 8
- b.[婉曲語] há:nsí y'ê:nda 「腹の下」

N.B. há:nsí 16 「下」は「肛門」の婉曲表現であるが(3.c), それに y'ê:nda 「腹の下」を付ければ「恥丘」の婉曲表現となる。

2.2. 排泄

(6) 大便

- a.[直接語] amâzi 6
- b.[婉曲語 1] obúbî 14 「悪いもの, 汚いもの」 < adj. -bî 「悪い, 汚い」
- c.[婉曲語 2] amafa:kúbî 6
- d.[婉曲語 3] (í:hwâ 5), amâhwâ 6 「刺」

e.[例文 1] Ó:ku halíyó amáhwâ. → ó:ku halíy'ámáhwâ. 「あそこには刺がある。」

f.[例文 2] Nsambire amáhwâ. → nsambir'amáhwâ. 「私は刺を踏んだ。」

g.[婉曲語 3] íswâ 5 「藪」

h.[例文] Hánu haróhó íswâ. 「ここに藪がある。」 → 「大便がある。」

N.B. amázi 6 「大便」も人前では口にしにくい語である。その代り 3 つの婉曲・非直接表現が用いられる。(6.b) obúbî 14 「悪いもの、汚いもの」は形容詞-bî 「悪い、汚い」をクラス 14 に置いたものである。クラス 14 は一般に抽象名詞を作るのに用いられるが、ここは抽象名詞で具体的に汚いものを指している。(6.c) amafa:kúbî 6 は、婉曲語と言うよりは丁寧な語である。okúfwâ 「死ぬ、無駄なものを生み出す」と kúbî 「悪く」の組み合わせである。okúfwâ の接頭辞がクラス 6 の ama-となっているのは amázi 6 「大便」に合わせているためである。もっと俗っぽい婉曲表現としては(6.d)の amáhwâ 6 「刺」である(単数形 íhwâ 5 はこの意味ではほとんど用いられない)。amáhwâ 6 「刺」は、この意味で日常生活ではごく普通に用いられる。例文(6.e)のように「刺がある」と言われれば、「大便」だと理解しなければならない。素直に「刺」と思っておけば大変なことになる。(5.f)は、「私は大便を踏んだ。」というのはいにくいいため、こういった表現が用いられるものである。(6.g) íswâ 5 「藪」も同じ発想である。なお íswâ 5 「藪」には(10)で見ると、「トイレ」の意味もある。

(7) 大便をする

a.[直接語] okúnîa

b.[婉曲語 1] okweyâ:mba 「自助する」

c.[婉曲語 2] okusî:sa 「無駄にする、傷める」

d.[例文] Agenzere okusî:sa. 「彼は排便に行った。」

N.B. (7.b) okweyâ:mba 「自らを助ける、自助努力する」は、排便は結局のところ自分自身のことであり、自らやらないといけないことであるので理にかなっている。(7.c) okusî:sa 「無駄にする、傷める」は、大便は無駄なものだと思えば理解しやすい。

(8) 小便

a.[直接語] enkâli 9

b.[婉曲語] amáizi 6 「水、液体」

(9) 小便をする

a.[直接語] okunyâ:ra

b.[婉曲語 1] okusî:sa amáizi 「水を撒く」

c.[例文] Gé:nda osé:sé amáizi! 「水を撒いてきなさい。」 → 「おしっこに行ってください。」

d.[婉曲語 2] okúcwá há:nsî 「地面に唾を吐く」

N.B. 小便も人前では口にしにくい語である。その代わりに, (8.b) *amáizi* 6 「水, 液体」を用いる。*amáizi* 6 は「水」という意味の最も普通の語であるが, 水以外に様々な液体も指す。例えば, 人前で, 子供に「おしっこに行ってきたさい。」と言う時は, (9.c) *Gé:nda osé:sé amáizi!* 「水を撒いてきなさい。」のように言う。動詞 *okusê:sa* は「液体を撒く」の意味である。もちろん(9.c)は, 文字通りには, 「要らない水を捨てて来い。」という意味であり, その意味で用いられることもある。なお, *amáizi* 6 という語は適用範囲が広く, (13)で見えるように, 「精液」についても婉曲表現として用いられる。(9.d) *okúcwá há:nsí* 「地面に唾を吐く」も「小便をする」の婉曲表現としてよく用いられる。文字通りには「地面に唾を吐く」ということであるから, その本来の意味で用いられることももちろんある。なお, ウガンダでは英語で「おしっこ」のことをしばしば *short call* と呼んでいるが, この英語表現に対応するのが(9.d) の *okúcwá há:nsí* 「地面に唾を吐く」である。

(10) トイレ, 便器

- a.[直接語 1] *ekyo:lô:ni* 7, *ebyo:lô:ni* 8
- b.[例文] *Agenzere omukyo:lô:ni*. 「彼はトイレに行った。」
- c.[直接語 2] *ekinâzi* 7, *ebinâzi* 8
- d.[婉曲語] *íswâ* 5 「藪」
- e.[例文 1] *Agenzere omwí:swâ*. 「彼は藪に行った。」 → 「トイレに行った。」
- f.[例文 2] *Íswâ, hânu, liri nkáhâ?* 「ここは藪(=トイレ)はどこにありますか。」

(11) 肛門を拭く

- a.[直接語 1] *okwehêha* 「自らの汚いものを拭く」
- b.[直接語 2] *okuragâza ekibûnu* 「尻をぬぐう」
- c.[直接語 3] *okweragâza* 「自らをぬぐう」
- d.[婉曲語] *okwesémêza* 「自らをきれいにする」

N.B. (11.a)の *okwehêha* は *okuhêha* 「汚いものを拭く」の再帰形である。(11.b-c)で用いられている *okuragâza* も「汚れをぬぐう」という意味であり, 表現としては(11.a)の *okwehêha* とほぼ同様である。(11.c)直接語 3 の *okweragâza* 「自らをぬぐう」と(11.d)の婉曲語 *okwesémêza* は, それぞれ *okuragâza* 「ぬぐう」と *okusemêza* 「きれいにする」の再帰形である。

2.3. 生殖・出産

(12) 性交渉を持つ

- a.[直接語] *okucûga*
- b.[例文 1] *Jô:ni acugire Mê:ri*. 「ジョンはメリーとセックスをした。」
- c.[例文 2] *Mê:ri acugirwe Jô:ni*. 「メリーはジョンとセックスをした。」
- d.[婉曲語 1] *okusi:hâna* 「お互いザラザラする」

- e.[婉曲語 2] okuterâna 「ひつつく」
- f.[婉曲語 3] okubyâ:ma 「寝る」
- g.[婉曲語 4] okúlyâ 「食べる」
- h.[例] okúlyâ omukâzi 「女性を食べる」

N.B. ニョロ語で「性交渉を持つ、セックスする」という意味の最も直接的な動詞は(12.a) okucûga である。この語は、(12.b)のように、男性を主語にして用いられる。女性を主語にする場合は、(12.c)のように受身形 okucûgwa にしなければならない。いずれにしても直接的過ぎて口に出すのは憚られる。最も普通に用いられる婉曲表現は、(12.d) okusi:hâna 「お互いザラザラする」と(12.e) okuterâna 「ひつつく」の2つである。この2つはいずれも相互の意味を表す接辞辞-an-が挿入されている。okusi:hâna 「お互いザラザラする」と言うのは性器の擦り合いのことである。okusi:ha 「ザラザラしている」の相互形である。また婉曲表現と言う程ではないが、(12.f) okubyâ:ma 「寝る」も用いられる。もう1つ面白い表現に(12.g) okúlyâ 「食べる」と言うのがある。これは上品な用語である。しかしこの語も、男性を主語にしてしか用いられない。女性を主語にする場合は、動詞は受身形である。ニョロ語の表現としては、女性は“食べられる”のである。

(13) 精液

- a.[直接語] amanyâ:le 6
- b.[婉曲語] amáizi g'o:musáija 6 「男の液体」

N.B. amáizi 6 は(8)で述べたように、「水、液体」を表す最も普通の語であるが、ここでは「精液」の婉曲語として用いられている。ただ「精液」は amáizi g'o:musáija 「男の液体」と言わなければ通じにくい。

(14) 月経中

- a.[直接語] okúba (okugé:nda) omukwê:zi
- b.[例文] Ali omukwê:zi. 「彼女は月経中である。」
- c.[婉曲語 1] okúba (okugé:nda) omumasûmi. 「期間中である。」
- d.[例文] Ali omumasûmi. 「彼女は月経中である。」
- e.[婉曲語 2] okúba omubigérê 「足の中にいる。」
- f.[例文] Ali omubigérê. 「彼女は月経中である。」

N.B. 女性の月経も口に出しにくい言葉である。最も一般的な直接語は(14.a) okúba (okugé:nda) omukwê:zi 「月の中にいる(行く)」というものである。ニョロ語の okwê:zi は、天体の月であり、またカレンダーの月でもある。これを婉曲語1のように amasûmi 「期間(pl.)」とすると、英語の period のように、少しぼかした表現となる。(14.e)の ebigérê 「足(pl.)」がどうして月経の婉曲表現になるのかは判然としない。なお、ニョロ語では十分調査できていないが、ニョロ語調査の数年前にその少し南に話されるアンコレ語を調査していた時(アンコレ語

はニョロ語と近い親縁関係にある)、「出血する」という語を月経の意味で使うということを女性のインフォーマントから聞いた。この語はニョロ語では *okújwâ* となり意味もアンコレ語とほぼ同じだと思われるが、現在の私のニョロ語の主インフォーマント(男性)によれば、この語は直接すぎて、ふさわしくないと言う。もしニョロ語でも直接的表現として用いるなら第2直接語として(14.a) *okúba (okugé:nda) omukwê:zi* と共に掲げるべきかもしれない。

(15) 産む

- a.[直接語] *okuzâ:ra*
- b.[例文] *Omukâzi azaire omwâ:na*. 「女性が子供を産んだ。」
- c.[婉曲語 1] *okusumu:rûka / okusumu:rrûka* 「(包みなどが)開く, (結びが)解ける」
- d.[例文] *Omukâzi asumu:rukîrê. / Omukâzi asumu:rrukîrê*. 「女性が解けた。」
- e.[婉曲語 2] *okwejûna* 「自らを助ける」
- f.[例文] *Omukâzi ayejunîrê*. 「女性が自助した。」

N.B. 「産む」の直接語は(14.a) *okuzâ:ra* である。2つの婉曲語がある。(15.c) *okusumu:rûka*~*okusumu:rrûka* 「(包みなどが)開く, (結びが)解ける」と(15.e) *okwejûna* 「自らを助ける」である。前者は、結びが解けて子供が生まれた、後者は自らを助けて子供が生まれたというイメージである。

(16) 安産である

- a.[直接語] *okuzâ:ra kurú:ngî*
- b.[婉曲語] *okusumu:rûka / okusumu:rrûka* 「(紐が)解ける, (包みが)開く」
- c.[例文] *Mukyâ:ra Kajûra asumu:rukîrê*. 「カジュラ夫人は問題なく子供を産んだ。」

N.B. この婉曲語は(15.c)の「産む」と同じである。これは、出産があたかも紐がスッと解ける様に行われたという意味であるから、本来は、安産の意味での婉曲表現なのであろう。

2.4. 病気・生死

(17) 象皮病

- a.[直接語] *obujôjo 14, ebijôjo 8 < enjôjo 9, 10* 「象」
- b.[例文] *Amagûru gâina obujôjo*. 「脚は象皮病を患っている。」
- c.[婉曲語 1] *ekijâ:kâ 7, ebijâ:kâ 8* 「ジャックフルーツ」
- d.[婉曲語 2] *fênê 9, 10* 「ジャックフルーツ」
- e.[婉曲語 3] *ekiyakóbô 7, ebiyakóbô 8* 「ジャックフルーツ」
- f.[例文] *Amagûrú gé gali nka ekijâ:kâ*. 「彼の脚はジャックフルーツのようだ。」

N.B. 「象皮病」*obujôjo 14, ebijôjo 8* はニョロ語でも「象」*enjôjo 9, 10* からの派生名詞で表わされるが(17.a), この語はとりわけこの病気に罹っている人の前では

タブーである。その代わりに、「ジャックフルーツ」という用語が用いられる。ジャックフルーツというのはラグビーボール大の大きな緑色した木の実であるが、表面がブツブツとしている。これが、象皮病と対比されるのである。例は(16.f)のようである。なお、ジャックフルーツには名称が3つあるが、どれも同じように用いられる。(51)で見る「けち」にも「ジャックフルーツ」が出てくるが、けちの場合は用いられるのは *fénê* 9, 10 のみである。

(18) インポテンツ

- a.[直接語] *omufwê:rwá* 1, *abafwê:rwá* 2
- b.[直接表現] *Embóro yé ekáfwa*. 「彼のペニスは死んだ。」
- c.[婉曲表現 1] *Akatomerwa entâ:ma*. 「彼は羊にぶつかられた。」
- d.[婉曲表現 2] *Akate:rwá entâ:ma*. 「彼は羊に打たれた。」
- e.[例文] *Ó:gu akatomerwa entâ:ma*. 「彼は羊にぶつかられた人だ。」 → 「インポテンツである。」

N.B. 羊はニョロ社会では様々な災難をもたらすとされ、嫌われている。そのうちの1つがこれで、羊にぶつかられるとインポテンツになると言われている。

(19) 下痢をする

- a.[直接語] *okucugûra*
- b.[婉曲語] *okutûrûka* 「出る」

N.B. 「下痢をする」も口に出しにくい語である。ニョロ族はその代り、*okutûrûka* 「出る」という用語を用いる。この語は、人が家から出たり、太陽が地平線から現れるなどの場合に用いられるごく普通の語である。名詞 *entûrûko* 9 「下痢便」もここから派生されている。ついでながら、*okucugûra* 「下痢をする」は非常に俗っぽい言い方で、「言う」を意味する。関西弁で「ぬかしてケツかる」という言い方があるか、それに近い。通常「言う」は *okubâza* である。

- c.[下品な表現] *Okucûgûrá kí?* 「お前、何ぬかしてケツかるんじゃ。」
- d.[通常の表現] *N'ô:bázá kí?* 「あなたは何を言っているのですか。」

(20) 死ぬ

- a.[直接語] *okúfâ*
- b.[婉曲語 1] *okucwe:kâna* 「切れる, 途切れる」
- c.[婉曲語 2] *okuhu:mûra* 「休む」
- d.[例文] *ahu:mwî:rê*. 「彼は休息に入った。」 → 「彼は死んだ。」
- e.[婉曲語 3] *okucu:lê:ra* 「黙る」
- f.[例文] *acu:lî:rê*. 「彼は黙った。」 → 「彼は死んだ。」
- g.[婉曲語 4] *okugurûka* 「飛ぶ」
- h.[例文] *Kátó agurukîrê*. 「カトは昇天した。」
- i.[婉曲語 5] *okugé:nda nyamiyô:nga* 「炭化の世界へ行く」

j. [例文] Akage'nda nyamiyônga. 「彼は炭化の世界へ行った。」 → 「彼は死んだ。」

k. [婉曲語 6] okugé'nda omwi'gûru 「天国へ行く」

l. [例文] Agenzere omwi'gûru. 「彼は天国へ行った。」

N.B. (20.a) okúfâ は本来「死ぬ」を意味する最も普通の語であるが、日常生活では直接的な「死ぬ」の意味で用いられることは稀である。この語は、日常の多くの場合、「(物が) 動かない」とか、少し派生した okúfáyô 「気に掛ける」のような表現で用いられるのである。その代り、実際の「死ぬ」は(20.b, c, e, g, i, k)のような婉曲表現を用いる。(20.b) okucwe'kána 「切れる, 途切れる」は okúcwâ 「(ロープを) 切る, (枝を) 折る」から自動詞派生されたものである。「人生が切れる」という意味である。(20.c) okuhu:mûra 「休む」は死を休息に喩えたもの、(20.e) okucu:lêra 「黙る」は死を沈黙に喩えたものである。(20.g) okugurûka 「飛ぶ, 舞い上がる」は、少し特殊で、双子の場合にしか用いられない(双子は他の表現も可能)。「飛ぶ, 舞い上がる」とあるが、これはキリスト教的意味で昇天するというのではない。(20.i)の nyamiyônga 9, 10 「炭化の世界」は omuyônga 3, emiyônga 4 「炭化物」から来ている。これは死体を焼くという意味ではなく、死ぬと抜け殻になるという意味である。キリスト教徒は「死ぬ」を(20.k) okugé'nda omwi'gûru 「天国へ行く」と表現する。

(21) 墓

a. [直接語] ekitû:ro 7, ebitû:ro 8

b. [婉曲語] émbî 9, 10 「墓穴」

N.B. ekitû:ro 7, ebitû:ro 8 は普通の意味での「墓」, それに対して émbî 9, 10 は元々「墓穴」を指す語であるが、墓を指す場合、ekitû:ro 7, ebitû:ro 8 より丁寧な語と考えられている。

2.5. 動物

動物名もしばしば口に出しがたい。特に蛇は怖がる人が多く、enjôka 9, 10 「蛇」という単語を訊いただけでパニックになる人がいる。以下、牛, 羊, ニワトリは、避けると言うよりも、特徴的な形, 動作などによる比喩的表現である。

(22) 動物

a. [直接語] ekisôro 7, ebisôro 8

b. [婉曲語] enyamáíswâ 9, 10 「藪の肉」

N.B. enyamáíswâ 9, 10 「藪の肉」は、enyâma 9, 10 「肉」と í:swâ 5 「藪」の合成語である。

(23) 蛇

a. [直接語] enjôka 9, 10

b. [婉曲語] búnwá bworôba 「柔らかい口」

c.[例文] Haróhó búnwá bworôba hânu. 「ここに柔らかい口がいる。」 → 「蛇がいる。」

N.B. 蛇は必ずしもコブラのように激しく攻撃するものだけではなく、穏やかで、藪の中を歩いていて噛まれても、いつ噛まれたのかしばらく分からないというものもある。恐らく、そのせいで「柔らかい口」と表現されるのであろう。もちろん、怖い表現にたくないということが根底にある。

(24) 象

a.[直接語] enjôjo 9, 10

b.[婉曲語] kakóno karáira 9, 10 「長い腕」

N.B. ニョロ語で「象」のことを、しばしば婉曲的に、(24.b) kakóno karáira 9, 10 「長い腕」と表現する。これは象の鼻が腕のようにブラブラしていることからくる換喩的表現である。Kakóno 9 は omukôno 3, emikôno 4 「腕」からの派生語である。接頭辞をクラス 14 の aka-としてある。冠詞 a-の取れた kakóno となっているが、これは一種の固有名詞化のためである。そのため、名詞のクラスは 12 ではなく 9, 10 となっている。

(25) ライオン

a.[直接語] entâle 9, 10

b.[婉曲語] makwî:zi 9, 10 「たてがみ」

c.[例文] é:nu makwî:zi 「これはライオンだ。」

N.B. たてがみでライオンを表すのは換喩である。ここでも(24)同様、amakwî:zi 6 「たてがみ」から冠詞の a-を取り名詞のクラスを 9 としている。

(26) 牛

a.[直接語] ê:nte 9, 10

b.[婉曲語] encwa-rúgô 9, 10 「柵を壊すもの」

N.B. 「牛」の婉曲語 (25.a) encwa-rúgô 9, 10 「柵を壊すもの」は okúcwâ 「壊す」と orúgô 11, éngô 10 「柵」の複合的構成である。かつては今程柵が頑丈ではなく、牛はよく柵を壊した。

(27) 羊

a.[直接語] entâma 9, 10

b.[婉曲語] enyamutêre 9, 10 「大きな尻尾のもの」

N.B. 羊は大きな尻尾をしており、これをニョロ語では omutêre 3, emitêre 4 と言う。enyamutêre の enya-は「~を特徴的に持つもの」の意味である。羊は山羊と違ってニョロ社会では不吉なものとして嫌われている。例えば、(18)にもあるように、羊に突かれるとインポテンツになると言われている。

(28) ニワトリ

a.[直接語] enkôko 9, 10

b.[婉曲語] mwoga-cû:cu 9, 10 「埃浴びをするもの」

N.B. この語は okwô:ga 「水浴びをする」と ecû:cu 9 「埃」との合成語である。ニワトリはしばしば地面に伏せ、羽根をバタバタさせていることがある。

2.6. 食べ物, 飲み物

(29) 食べ物

a.[直接語] ebyo:kúlyâ 8

b.[婉曲語] endyá:gâ 9, 10

c.[例文] Halíyó endyá:gâ nyîngi omukatâle. 「市場には食べ物が多くある。」

N.B. 直接語 ebyo:kúlyâ 8 「食べ物」は非常に日常的な語であり、優雅さは感じられない。ebyo:kúlyâ の構成には e-bi-a o-ku-li-a のように、動詞語根-li-「食べる」が含まれているが、婉曲語 endyá:gâ 9, 10 にもこの語根-li-が含まれている (e-n-li-ag-a) が、同時に習慣相を表す-ag-も含まれており、この婉曲語は本来「いつも食するもの」の意味である。これはあまり日常では聞かれない婉曲語である。

(30) サトウキビ

a.[直接語] ekikáijo 7, ebikáijo 8

b.[婉曲語] ekitê:nge 7, ebitê:nge 8

N.B. 婉曲語 ekitê:nge 7, ebitê:nge 8 の元々の意味は分からない。この語はサトウキビの婉曲語としてしか用いられない。

(31) 酒

a.[直接語 1] omwé:ngê 3, emyé:ngê 4

b.[直接語 2] amá:rwâ 6

c.[婉曲語] obuseméza amáiso 14 「目を生き生きとさせるもの」

N.B. この酒の婉曲表現は、複合語的構成をしている。動詞 okusemêza 「きれいにする」からの派生名詞 obusemêza 14 「きれいにするもの」とその目的語 amáiso 6 「目」である。酒を飲むと (少なくとも最初のうちは) 目が輝いてくる。

2.7. 事物

(32) 石

a.[直接語] i:bâ:le 5, amabâ:le 6

b.[婉曲語] irô:ni 5, amarô:ni 6

N.B. 石も嫌われるものの1つである。とりわけ人々は裸足で歩くため、鋭利なものは嫌う。そのための言い換えであるが、婉曲語 irô:ni 5, amarô:ni 6 の元々の意味は分からない。石の婉曲語としてしか用いられない。

(33) 賄賂

- a.[直接語] engúzí 9, 10
 b.[婉曲語] ekikó:ndê 7, 8 「拳骨」
 c.[例文] Amuti:re engúzí. 「奴は彼に拳骨を食らわした。」→「賄賂を贈った。」
 d.[婉曲表現] okúlyá ekikó:ndê 「拳骨を食べる」→「賄賂をもらう」

N.B. ニョロ語には「拳骨」を意味する語は ekikó:ndê 7, 8 以外にもう 1 つ entômi 9, 10 というものもあるが、「賄賂」の意味で用いられるのは ekikó:ndê 7, 8 のみで、entômi 9, 10 は用いられない。

(34) 秘密

- a.[直接語] ensîta 9, 10
 b.[婉曲語] ebya: nyamunâga 「壺のこと」
 c.[例文] Ebya: nyamunâga, ti:nyína kubibázâhò. 「秘密のことは言いません。」

N.B. nyamunâga 9, 10 は大きな土製の壺で、物、特に貴重な物をしまっておくのに用いられる。従って、ebya: nyamunâga 「壺のこと」と言えば、人に知られたくない貴重なこと(物)ということになる。

2.8. 行為

(35) 寝る

- a.[本来語] okubyâ:ma
 b.[婉曲語 1] okwekî:ka 「斜めになる」
 c.[例文] Génda oyeki:kéhò! 「行って斜めになりなさい。」→「寝に行きなさい。」
 d.[婉曲語 2] okubutâma 「動物が寝る」

N.B. ここで言う「寝る」は英語の to lie down, to go to bed に当たるもので、「眠る」ではない。「寝る」を本来語で(35.a) okubyâ:ma と言うのは、恐らく素直すぎるのであろう。これを婉曲的に(35.b) okwekî:ka 「自らを斜めに置く」と言い換える。okwekî:ka (<oku-e-kî:ka) は okukî:ka 「斜めに置く」の再帰形である。しかしベッドに寝る時、わざわざ体を斜めに置くわけではない。寝ているうちに斜めになるというわけである。婉曲語 2 の okubutâma は本来、「動物が足を折って寝る」の意味で用いられるものである。例えば、犬が地面にうづくまる場合である。これが婉曲的に「人間が寝る」の意味で用いられる。

(36) 食べる

- a.[本来語] okúlyâ
 b.[婉曲表現] okunagíra rugó:ndô 「腹の虫に食べ物を投げ入れる」
 c.[例文] Tugé:ndé kunagíra rugó:ndô! 「腹の虫に食べ物を投げ入れに行こう。」
 →「さあ、食事に行こう。」

N.B. 婉曲表現に出てくる *rugó:ndô* 9, 10 は、日本語で「腹の虫が鳴いている」という時の「腹の虫」である。回虫などの具体的寄生虫ではない。食事を取ることは、比喩・婉曲的にその腹の虫に食べ物を投げ入れると表現される。

(37) 酔う

a. [直接語] *okutamîra*

b. [婉曲表現] *okutê:kámû* 「内に入れる」

c. [例文] *Ate:kerémû*. 「彼は内に入れた。」 → 「酔っている。」

N.B. 「酔う」は婉曲的に「内に入れる」と表現される。何を内に入れるかと言うと、それは言わずもがな、*omwé:ngê* 3 「酒」である。この表現は、麻薬に酔う場合にも婉曲表現として用いられる。

(38) 吐く

a. [直接語] *okutánâka*

b. [婉曲語] *okusésêma* 「戻す」

N.B. 婉曲語 *okusésêma* に元々の意味はなく「吐く」の意味でしか用いられない。直接語でないということは、日本語と同じように「戻す」といった感じなのであろう。なお、*okutánâka* は非常に下品な言い回しで、「言う」の意味がある（「言う」の本来語は *okubâza*）。

c. *Îwe, okutanáká kî?* 「お前、何吐いとるんじゃ。」 → 「何を言っているのだ。」

(39) キスをする

a. [直接語] *okunwegêra*

b. [婉曲表現] *okutê:ra kî:si* 「キスを打つ」

c. [例文] *Amuteire kî:si ibîri*. 「彼は彼女にキスを二回した。」

N.B. 婉曲表現の中に出てくる *kî:si* 9, 10 「キス」は英語からの借用である。ニョロ社会では人前でキスをすることは極めて不作法なこととされている。人前でのキスはヨーロッパ人のものである。

(40) 踊る

a. [直接語] *okuzîna*

b. [婉曲表現] *okusâra amazîna* 「踊りを切る」

N.B. *amazîna* 「踊り」を *okusâra* 「切る」と表現するのは一種の比喩的表現である。あたかも、刃物で切るかのように踊る。

(41) 化粧をする

a. [直接語] *okwesî:ga*

b. [婉曲表現] *okwekórâhô*

N.B. 「化粧をする」の直接語(41.a)は *okusî:ga* 「(白粉などを)塗る」の再帰形 *okwesî:ga* 「自らに塗る」である。婉曲語(41.b)は、*okukôra* 「働く」の再帰形 *okwekôra*

「自らに働く」に接語の-hô「その上に置いて」を付けたものである。「自らの体の上において働く」の意味である。

(42) 逮捕する

- a.[直接語] okukwâ:ta
- b.[婉曲語] okúnywâ「飲む」
- c.[例文] Bamunywírê.「彼らは彼を飲んだ。」→「彼は逮捕された。」

(43) 叩く

- a.[直接語] okutê:ra
- b.[婉曲語] okúlyâ「食べる」
- c.[例文] Bamulire emîgo.「彼らは彼を杖で食べた。」→「彼は杖で叩かれた。」

(44) 隠れる

- a.[直接語] okwesérêka
- b.[婉曲表現] okulíra omukisákâ「藪の中で食べる」
- c.[例文] Akulíra omukisákâ.「彼は藪の中で食べている。」→「身を隠している。」

2.9. 人の性格・動作

(45) 身上(しんしょう)を潰した人

- a.[直接語] omú:ntu w'e'ngéso mbí
- b.[婉曲表現] ekisásâra 7, ebisásâra 8「蜜蝋」

N.B. (45.b) ekisásâra 7, ebisásâra 8「蜜蝋」とは蜂蜜を取った残りのことである。中に何も入っていない。無価値の比喩表現である。かつては羽振りが良かった人が身上を潰した場合に用いられる。なお、直接語で「身上を潰した人」がなぜ omú:ntu w'e'ngéso mbí「行為の悪い人」と呼ばれるかと言うと、本来やるべきではない反社会的行為をやるからである。そのせいですべてがぶち壊しとなる。

(46) 喧嘩ばやい人

- a.[直接語] okukungâna「喧嘩する」
- b.[例文] Akungana múno.「彼はしょっちゅう喧嘩する。」
- c.[婉曲表現] orúnwâ 11, é:nwâ 10「雀蜂」
- d.[例文] Áína orúnwâ.「彼は雀蜂を持っている。」→「彼は喧嘩ばやい。」

N.B.「喧嘩ばやい人」は比喩的に orúnwâ 11, é:nwâ 10「雀蜂」と呼ばれる。雀蜂の攻撃性に注目した表現である。

(47) 聞き分けのない人, 頑固な人

- a.[直接語] entahú:rra 9, 10
- b.[婉曲表現] empíke 9, 10「固い白蟻の巣」

- c.[例文] *Áína omútwé gw'empíke*. 「彼は固い白蟻の巣の頭を持っている。」→
「頑固である。」

N.B. 白蟻の巣はニョロ族の土地では一般に赤土の上にでき、小高い山のような恰好をしている。これはまだ白蟻が住んでいるものである。しかし古い白蟻の巣には土の部分が固まって極めて固くなったものがある。黒っぽい色をしている。これをニョロ語では *empíke* 9, 10 と言う。固くて頑丈なので、かまどの材料として重宝される。これが頑固頭の比喩表現 (*omútwé gw'empíke* 「固い白蟻の巣の頭」) として用いられるのである。

(48) 不誠実な人, ずるい人

a.[直接語] *omugôbya* 1, *abagôbya* 2

b.[婉曲表現] *enkênde* 9, 10 「猿」

- c.[例文] *Áína amagézi g'enkênde*. 「彼は猿の知恵を持っている。」→「彼はずるい人だ。」

N.B. 逃げるのがうまくで、ずるい人のことをニョロ語では、婉曲的に *enkênde* 9, 10 「猿」と言う。物事を正面から対処しようとしなない不誠実な人 *omugôbya* 1, *abagôbya* 2 のことである。

(49) ずる賢い人

a.[直接語] *omugezigêzi* 1, *abagezigêzi* 2

b.[婉曲表現] *enjôka* 9, 10 「蛇」

- c.[例文] *Ó:gu (ali) njôka*. 「あいつは蛇だ。」→「ずる賢い人だ。」

N.B. (48)の「不誠実な人」よりもっとずる賢い人は *enjôka* 9, 10 「蛇」と言う。

(50) そそっかしい人

a.[直接語] *okútáfáyô* 「気にしない」

b.[婉曲表現] *horoihôro* 9, 10 「チョロチョロ動く小さい蛇」

- c.[例文] *Ó:gu (ali) horoihôro*. 「あいつはチョロチョロ蛇だ。」→「そそっかしいヤツだ。」

N.B. そそっかしく、細かいことを気にかけない人のことをニョロ人は、婉曲的に *horoihôro* 9, 10 と表現する。この蛇は小さく、チョロチョロ動くので、その連想からの比喩表現である。

(51) けちな人

a.[直接語] *endumi:rîzi* 9, 10 / *omurumi:rîzi* 1, *abarumi:rîzi* 2

b.[婉曲表現 1] *omúfú w'ênda* 1, *abáfú b'ênda* 2 「自分の腹のみを気に掛ける人」

- c.[例文] *Ó:gu múfú w'ênda*. 「あいつは(自分の)腹の虜だ。」→「けちだ。」

d.[婉曲表現 2] *fênê* 9, 10 「ジャックフルーツ」

- e.[例文] *Ó:gu (ali) fênê*. 「あいつはジャックフルーツだ。」→「けちだ。」

N.B. 婉曲表現 1 (51.a) omúfú w'ênda の構成は以下のようなものである。omúfú 1 は文字通りには「死人」であるがここでは「それにばかりを気にする人」のことである。何を気にするかと言えば、ênda 9 「腹」である。w'のところは連結辞 wa の母音 a が省略されている。結局のところ、「自分の腹のことばかり考える人」という表現である。これが「けちな人」の意味で婉曲的に用いられる。(51.d) の fênê 9, 10 「ジャックフルーツ」というのは緑色のラグビーのボール大の果実であるが、その白い果汁は粘り気が強く、一度くっついたらなかなか離れない。この粘着性がけちにつながる。

(52) 何にでも難癖をつける人、偏屈な人

a.[直接語] omú:ntu w'engéso mbí 1, abá:ntu b'engéso mbí 2²

b.[婉曲表現] orumbúgû 11 「草の一種、地中で根を絡ませる」

c.[例文] Áína orumbúgû. 「彼はルンブグの草を持っている。」→「偏屈な人だ。」

N.B. 婉曲表現の orumbúgû 11 というのは小さな雑草であるが、地中で根を絡ませる。その曲がりくねった根が人の偏屈さにつながる。子供が花を見にちよつと庭先に入ると、コラッと追い返すような人で寛容性、協調性がない。なお、直接語の omú:ntu w'engéso mbí 1, abá:ntu b'engéso mbí 2 は、(45)の「身上を潰した人」と同じ表現である。直訳的には「反社会的行為をやる人」の意味である。

(53) 内実のない人、信頼できない人

a.[直接語] atáli mwesígwa 1, abatáli besígwa 2

b.[婉曲語] orubéryâ 11, embéryâ 10 「ヒエによく似た草」

c.[例文] Jóni ali rubéryâ. 「ジョンは rubéryâ だ。」→「見かけだけのヤツだ。」

N.B. orubéryâ 11, embéryâ 10 というのはヒエ畑にヒエと一緒に生え、しかもヒエによく似た雑草である。しかしこの草は、ヒエと違って実を付けない。これは一見良さそうでダメなもの、あるいはダメな人の喩として用いられる。付き合いたくない、あるいは一緒にいて欲しくない人である。教会においても、説教者が「神を受け入れない者は orubéryâ だ。」などと言う。

(54) 体の弱い人

a.[直接語 1] okutagira mâ:ni 「力がない」

b.[直接語 2] okucêka 「弱い」

c.[婉曲語] omisogasôga 3, emisogasôga 4 「ヒマ」

d.[例文] Jóni ali musogasôga. 「ジョンはヒマだ。」→「体が弱い。」

N.B. ヒマの木は茎の中が空洞になっており、弱くすぐ折れる。それが「体の弱い人」の比喩・婉曲表現として用いられる。

(55) 痩せている人

² これは本来の表現ではなく、táli mwesígwa. 「彼は誠実ではない。」、tibáli besígwa 「彼らは誠実ではない。」を関係節化したものである。

a.[直接語] okwa'núka

b.[婉曲語] kátí ko:mêre 「枯れた棒」

c.[例文] Jóni ali kátí ko:mêre. 「ジョンは枯れた棒だ。」→「非常に痩せている。」

N.B. 婉曲語における ko:mêre は動詞 okukôma 「枯れる」の完了現在形の主語関係節形である。

(56) 小人

a.[直接語] omugûfu 1, abagûfu 2

b.[婉曲語] Bampí:mbé ndé:bê 「遠くが見えるように私を持ち上げさせろ」

c.[例文] Ó:gu ali bampí:mbé ndé:bê. 「あいつは“遠くが見えるように私を持ち上げさせろ”だ。」→「小人だ。」

N.B. omugûfu 1, abagûfu 2 「小人」は背が低い。従って、持ち上げてもらわなければ遠くは見えない。(56.b)の婉曲語にある Bampí:mbé は、動詞 okuhîmba 「持ち上げる」の接続法の形であり、「彼らに私を持ち上げさせろ」という意味である。また ndé:bê も動詞 okulê:ba 「遠くを見る」の接続法の形で「私が遠くが見えるように」という意味である。この2つが合わさって「私が遠くが見えるように人々に私を持ち上げさせろ」となり、それが「小人」の婉曲的表現となる。本来は動詞形であるものが、名詞として用いられている。

(57) 危険人物

a.[直接語] omú:ntu w'a'kábi

b.[婉曲語] encwé:râ 「コブラ」

c.[例文] Jóni ali ncwé:râ. 「ジョンはコブラだ。」→「危険人物だ。」

(58) その日暮らしの人

a.[直接語] omú:ntu á:tyô

b.[婉曲語] ncwé:ra nya:tírê 「それを私に切ってちょうだい、おかず無しで食べるから。」

c.[例文] Jóni ali ncwé:ra nya:tírê. 「ジョンは“それを私に切ってちょうだい、おかず無しで食べるから”だ。」→「ジョンはその日暮らしの生活をしている。」

N.B. ご飯があれば食べるし、なければ食べない。「キャッサバでも何でも一部でいいから切り取ってちょうだい、おかずなしで食べるから。」と言うのは、浮浪者的に無計画な、その日暮らしの生活をしている人の言い草である。ご飯の全体ではなくて一部でいいから切り取るということ自体が食い詰め観を表しているが、おかず無しでも食べるというのが、それに輪をかけている。通常は彼らの主食（ヒエ団子、バナナあるいはキャッサバの蒸かしたもの）は、おかず（ソース）につけて食べるのである。ncwé:ra「私に切ってちょうだい」は okúcwâ 「切る」の命令形、そして nya:tírê「私がおかず無しで食べるように」は okunyâ:ta

「おかず無しで食べる」の接続法である。ここも(56)同様、本来、動詞形であるものが名詞形として用いられている。例文(58.c)においてこの句は *Jóni ali* 「ジョンは～である」の後に補語として用いられている。

(59) 走るのが速い人

a.[直接語] *okwirúka bwângu*

b.[婉曲語] *enyólyâ* 9, 10 「ヒキ蛙」

c.[例文] *Airuka nka enyólyâ*. 「彼はヒキ蛙のように走る。」→「走るのが速い。」

N.B. ヒキ蛙 *enyólyâ* 9, 10 はピョンピョンと飛び跳ね、誰も捕まえることができない。この敏捷さが速く走ることの比喩として用いられる。

3. 比喩・慣用表現

以下のものは、以上の間接・婉曲表現とは異なり、通常の表現が別の慣用的意味を持つに至ったものである。本来の表現のないものも多い。成句的表現が多く、格言、諺に近い。

(60) a.[表現] *okuté:kámú omú:ntu omûnwa*

b.[直訳] 人の中に口を入れる

c.[意味] 人に噂を吹き込む

d.[例文] *Bamute:kerémú omûnwa*. 「人々は彼に噂を吹き込んだ。」

N.B. *omûnwa* 3 「口」とは噂のことである。

(61) a.[表現] *okuhé:mba omû:rro*

b.[直訳] 火を起す

c.[意味] 諍いを起す

d.[例文] *Jóni aizirége, yahé:mba omû:rro*. 「ジョンが来て、諍いを起した。」

(62) a.[表現] *okucumbíra enkóko omubbiníkâ*

b.[直訳] ニワトリをヤカンで煮る

c.[意味] 誤魔化す、カムフラージュする

d.[直接表現] *okusérêka* 「隠す」

N.B. ニワトリを鍋で料理していると、ニワトリを料理していることがすぐわかる。しかしヤカンで料理すると、人にはわからない。

(63) a.[表現] *okurangíra enkóko ebinyô:bwa*

b.[直訳] ニワトリにピーナッツを炒る

c.[意味] 無駄なことをする、不必要なことをする

N.B. ニワトリはピーナッツが好きである。生でも食べる。ニワトリにピーナッツを炒ってやる必要はないのだ。猫に小判。

(64) a.[表現] *okusi'ndíka asitamîre*

- b.[直訳] しゃがんでいる人を押し倒す
 c.[意味] 非常に簡単なことをする, 非常に簡単にする
 d.[例文] *Jó:mi asindikire asitamîre.* 「ジョンはいともたやすくやってのけた。」
 N.B. この例文の意味は, 「彼は, しゃがんでいる人を押し倒すかのように, 簡単にやってのけた。」である。
- (65) a.[表現] *okwekí:ka omubî:ntu*
 b.[直訳] 物事の中に自らを横たえる
 c.[意味] 首を突っ込む, 口出しをする, 邪魔をする
- (66) a.[表現] *okuli:siríza omû:ntu*
 b.[直訳] 人にいつも食べさせる
 c.[意味] 人を側で見張る
 d.[例文] *Génda omuli:siríze!* 「ヤツにくっついて見張っておけ。」
 N.B. *okuli:siríza omû:ntu* 「人にいつも食べさせる」ということは, いつも人の側にくっついていてということである。
- (67) a.[表現] *okúlyá ebisíyága*
 b.[直訳] もみ殻を食べる
 c.[意味] ホモセクシュアルである
 N.B. *ebisíyága* 8 は「もみ殻, コーヒーの実の殻」などで, 無用のもの, カスである。「ホモセクシュアルである」ことは, そのカスを食べると表現する。本来の言い方はないようである。レズビアンに対してもこの表現を用いる。
- (68) a.[表現] *okusindíka omúntu n'e'kítí (nka ekikêre)*
 b.[直訳] (蛙のように) 人を棒で押す
 c.[意味] 人を追い払う
 N.B. 蛙は棒で突いて追い払う。それと同じように人も追い返す。これは, 愛想なく人を追い返す時の表現。
- (69) a.[表現] *okwitíra omú:ntu hanôno*
 b.[直訳] 人を爪で殺す
 c.[意味] 人を邪険に取り扱う
 N.B. シラミやノミは見つけたら爪の間でパチッと殺す。人をあたかもシラミやノミを殺すように邪険に取り扱う場合の表現。
- (70) a.[表現] *okusekéra omungâro*
 b.[直訳] 手の中で笑う
 c.[意味] 笑いをかみ殺す
 N.B. うれしい時どうしても笑いが込み上げて来る。そしてそれを抑えるには手を口に持っていく。これは, うれしさをかみ殺す時の表現である。

- (71) a.[表現] Esátí ekumeráhó ekihîmba
 b.[直訳] シャツに豆が芽を出す
 c.[意味] シャツが極めて汚い
 N.B. シャツの襟のところが非常に汚れていて、豆が芽を出す程である。
- (72) a.[表現] okúgwá omubîntu
 b.[直訳] 物の中に落ちる
 c.[意味] ツイている
 d.[例文] Agwire omubîntu. 「彼は物の中に落ちた。」 → 「彼はツイている。」
 e.[通常文] Áína omugísa. 「彼は幸運を持っている。」 → 「彼はツイている。」
 N.B. okúgwá omubîntu 「物の中に落ちる」と言うことは、ツボを得たことを行うということである。普通の表現では(72.e)のように言う。
- (73) a.[表現] okúgwá habi:kwô:kya
 b.[直訳] 燃えている物の中に落ちる
 c.[意味] 問題に巻き込まれる
- (74) a.[表現] okulíra hangûhyo nka omubúmbi w'e'binâga
 b.[直訳] 壺づくり職人のように、皿の破片で食事をする
 c.[意味] つつましやかな生活をする
 N.B. 壺づくり職人は売り物である皿では食事をしない。売り物にならない欠けた皿の破片で食事をするのである。
- (75) a.[表現] okulíra harugáli
 b.[直訳] 箕で食事をする
 c.[意味] 難なくやる、幸運である
 d.[例文] Ali:riire harugáli. 「彼は箕で食事をした。」 → 「彼は簡単にやってのけた。」
 N.B. orugáli 11, engáli 10 「箕」というのは本来、風撰の道具であるが、これが食事時の大皿の代わりに用いられる。平たくて大きいので、そこに主食のバナバの茹でたものを盛っても、たとえ人が大勢いても、容易に手を出して食べることができる。もし小さい皿だと大勢で食べる時、手を出すのも大変である。
- (76) a.[表現] okúlyá okwatirîre nka omúfú w'a'máiso
 b.[直訳] 盲人の様に手で持って食べる
 c.[意味] 物事を用心して進める
 N.B. 通常人は食事は大皿に盛って食べるが、盲人は目が見えないため、皿から食べることができない。それで食べ物を手に持ち、そこから食べるのである。この喩は物事を慎重に、用心して進めるの意味で用いられる。okwatirîre 「あなたは手に持つ」の部分の関係節化されていて、食べる時の状態を示している。

- (77) a.[表現] okúlyá nyínâ
 b.[直訳] 母親を食べる
 c.[意味] 母親と近親相姦を犯す
 d.[例文] Jó:ni akalira nyínâ omumbîso. 「ジョンは母親とバナナ畑の穴で寝た。」
 N.B. 「母親と近親相姦を犯す」は okúlyá nyínâ 「母親を食べる」と表現される。ニョロ族はバナナ酒をつくるため、バナナ畑の中にちぎったバナナを熟させる穴を掘る。この穴は秘め事をするには格好の場所である。近親相姦もそこで行われる。
- (78) a.[表現] amáizi kucú:mba é:ncû
 b.[直訳] 水が魚を煮る
 c.[意味] ひどい裏切り
 d.[例文] Mahâno! Amáizi kucú:mba é:ncû! 「ひどいこと！水が魚を煮るなんて。」
 N.B. 魚は水の中が住処であり、そこにいる時が一番心地よい。しかし、水は魚を煮るにも用いられる。何という皮肉。ひどい裏切りがあった場合、水で魚を煮るようなものだ、という言い方をする。
- (79) a.[表現] okubya:mí:ra amátû ngu enyí:ndo zira:hú:rrâ
 b.[直訳] 耳を塞いで鼻が聞き分けるかのように寝る
 c.[意味] バカさ加減、問題が生じているのにわからない様
 N.B. 人は様々なことに気をつけていなければならない。耳を塞いで寝ても、鼻が聞いてくれるからいいや、というのはバカの現れである。
- (80) a.[表現] okúbá mbwá na mûsu
 b.[直訳] 犬とケインラットの仲である
 c.[意味] 犬猿の仲である
 d.[例文] Jó:ni na Mé:ri bali mbwá na mûsu. 「ジョンとメアリーは犬猿の仲である。」
 N.B. 日本では「犬猿の仲」と言うが、ニョロ語では「犬とケインラットの仲」と言う。ケインラットというのは、野原の住む大型の齧歯類で食用にもなるが、犬の好物でもある。
- (81) a.[表現] kakokôra, tondéká nyû:ma!
 b.[直訳] 肘よ、私を後ろに置いておくな。
 c.[意味] スタコラと逃げ出す
 d.[例文] Omusúma ate:kerémû “kakokôra, tondéká nyû:ma! ”. 「泥棒はスタコラと逃げ出した。」
 N.B. 人が走る時、肘が前に行けば体は後ろに行く。その時、体が肘に tondéká nyû:ma! 「私を後ろに置いておくな。」と言う。その様子がエッチラオッチラ走っている様子を表す。kakokôra 「肘よ」は呼びかけ、そして tondéká nyû:ma! 「私

を後ろに置いておくな。」は動詞の命令形であるが、総体として様態を表す副詞句となっている。

- (82) a.[表現] Otanágáhó kárwê!
 b.[直訳] 君のものは何も投げ入れるな。
 c.[意味] コメントするな。
 N.B. 何か言われてもコメントするな。その言葉が後で自分に降りかかって来る。
- (83) a.[表現] okulí:sa omú:ntu akato:robéré
 b.[直訳] 人に柔らかくないものを食べさせる
 c.[意味] 人に辛い思いをさせる
 d.[例文] Akumulí:sa akato:robéré. 「ヤツは彼に辛い思いをさせている。」
- (84) a.[表現] busáhó kúcwá ogw'e:kibîra
 b.[直訳] 森の境を越えない
 c.[意味] 蟄居する
 d.[例文] Írwe, busáhó kúcwá ogw'e:kibîra. 「お前、じっと蟄居していなさい。」
- (85) a.[表現] Obwí:re butuli:ri:re empînga.
 b.[直訳] 時間が我々の予定を食べた。
 c.[意味] 時間切れだ
- (86) a.[表現] okuhé:mba omû:rro
 b.[直訳] 火をつける
 c.[意味] 手が付けられない状態になる
 d.[例文] Ahembere omû:rro. 「彼は議論に火がついてしまった。」
- (87) a.[表現] omusamba-lyâ:nda
 b.[直訳] 熾った炭をも踏みつけることのできる人
 c.[意味] どんなことにも対処できる人
 d.[例文] Ó:gu musamba-lyâ:nda. 「アイツはどんなことでもできるヤツだ。」
- (88) a.[表現] omusá:hi gusa:lî:re
 b.[直訳] 苦い血
 c.[意味] 不運, 不幸な星
 d.[例文] Jóni áína omusá:hi gusa:lî:re. 「ジョンは苦い血を持っている。」 → 「不幸な星の元に生まれている。」
- (89) a.[表現] akalími kábî
 b.[直訳] 悪い舌
 c.[意味] 口が悪いこと

d.[例文] Jó:ni áina akalími kábî. 「ジョンは悪い舌を持っている。」 → 「口が悪い。」

(90) a.[表現] mboha nyé:nká

b.[直訳] 私は私自身を縛る

c.[意味] 人の意見を聞かないこと

d.[例文] Jó:ni ali “mboha nyé:nká”. 「ジョンは“私は私自身を縛る”だ。」 → 「人の意見を聞かないヤツだ。」

(91) a.[表現] okwê:rya omujûju

b.[直訳] 髪が逆立つ

c.[意味] 非常に怒る, 手が付けられない程怒る

d.[例文] Jó:ni ayeri:re omujûju. 「ジョンは手が付けられない程怒っている。」

e.[例文] Aizire n’o’mujûju. 「彼は髪を逆立たせて来た。」

(92) a.[表現] aka:mâ:ma

b.[直訳] ママのもの

c.[意味] ママのものだから自分のもの

d.[例文] Ndi:re aka:mâ:ma. 「ぼく, ママのものを食べちゃった。」

N.B. aka:mâ:ma 「ママのもの」とは aká:ntu ka: mâ:ma 「ママの物」の省略形である。人の机の上に何かあった場合, 勝手にそれを失敬する。「人の物を勝手に取ったらダメじゃないか。」と詰問されると, 「ぼくのママのものかと思っちゃった。」と言いつくをする。ママのものだから自分が使ってもいいかと思ったと言うわけである。ちょっとした弁解の表現である。

(93) a.[表現] okwirukíra enjúra omurufû:njo

b.[直訳] 雨を避けてパピルス林に逃げ込む

c.[意味] バカなことをする, 間抜けなことをする

d.[例文] Bâ:mbi, oiruki:re enjúra omurufû:njo. 「なんてこった, お前さんは雨を避けてパピルス林に逃げ込んでいるじゃないか。」

N.B. パピルスは 1m から 2m の高さになる植物で, 茎の先が糸状に広がっており, 雨宿りには何の役にも立たない。またパピルスが生えるのは湿地ということもある。しかしバカな奴は雨が降ってきたらパピルス林に逃げ込むのである。

(94) a.[表現] akabíra kataímá nkû

b.[直訳] 薪を断らない林

c.[意味] 誰とでも寝る女

d.[本来語] omwâ:ngu 1, abâ:ngu 2 「簡単なヤツ」

e.[例文] Jó:si ali kabíra kataímá nkû. 「ジョイスは薪を断らない林だ」 → 「誰とでも寝る。」

N.B. 「薪を断らない林」とは、「薪頂戴」と言ったら、「いいよ」と、いつでも薪をくれる林のことである。

(95) a. [表現] okujwé:ka omú:ntu amátú g'embûzi

b. [直訳] 人にヤギの耳を着せる

c. [意味] 人に不利な証言をする

N.B. 「人にヤギの耳を着せる」ということは、ハイエナの餌食にすることである。

(96) a. [表現] omusáná gu:kwâ:ka omunsâho

b. [直訳] ポケットに日の光が透けて見える

c. [意味] スッカラカンである

N.B. ポケットにお金が入っていれば日の光は透けない。

(97) a. [表現] okwí:ja n'o'mû:ro

b. [直訳] 火と共に来る

c. [意味] 火種を持ち込む

d. [例文] Aizire n'o'mû:ro. 「彼は火種を持ち込んだ。」

(98) a. [表現] okutwá:rwa ensohêra, okugarúka n'emíbû

b. [直訳] 蠅と共に出て行って蚊と共に帰ってくる

c. [意味] 何をしているかわからないヤツだ

d. [例文] Atwa:rwa ensohêra, agaruka n'emíbû. 「ヤツは蠅と共に出て行って蚊と共に帰ってくる」 → 「得体の知れないヤツだ。」

N.B. 表現 okutwá:rwa ensohêra, okugarúka n'emíbû 「蠅と共に出て行って蚊と共に帰ってくる」というのは、朝早く出て行って夜遅く帰ってくるという意味である。蠅は朝早くからいるが、マラリア蚊は夜出てくる。家にはほんのわずかしきかず、表で何をやっているかわからないという意味である。どうせ、ロクなことをしていないという含みがある。

(99) a. [表現] okubú:nga atákáísîre

b. [直訳] 自分が動物を殺していない時に人を訪問する

c. [意味] 利己的な人

d. [例文] Abur'nga atákáísîre. 「彼はいつも動物を殺していない時に人を訪問する。」

N.B. 動物を殺していれば訪問時に肉を持って行かなければならないが、殺していなければ、持って行く必要はないのである。

(100)a. [表現] okuké:nga (enkóko) iko:kérê

b. [直訳] (ニワトリが) 鳴いてから理解する

c. [意味] 出来事が生じてから理解する

d.[例文] Balikenga (enkóko) iko:kérê. 「彼らは（ニワトリが）鳴いてから理解するだろう。」

N.B. 人はなかなか物事を前もって考えておくことができない。子供が病気になってから、泥棒に入られてから、「アア、ああやっておけばよかった。」と反省する。

(101)a.[表現] okukisâra

b.[直訳] それを切る

c.[意味] トンズラする

d.[本来語] okutorôka 「逃げ出す, 逃亡する」

e.[例文] Jóni akisazírê. 「ジョンはトンズラした。」

N.B. okukisâra 「それを切る」の-ki-「それ」（イタリックで示す）とは, ekikû:bo 7 「家と家との境目」のことである。そこを“切って”よそへ行くのである。

(102)a.[表現] bi:kwí:ha i:sóke hamútwê

b.[直訳] 頭から毛を取り去る

c.[意味] 身の毛もよだつ

d.[例文] Ebigámbo bi:kwí:ha i:sóke hamútwê. 「その話は頭から毛を取り去る。」
→「身の毛もよだつ話だ。」

N.B. 表現 bi:kwí:ha i:sóke hamútwê は Ebigámbo bi:kwí:ha i:sóke hamútwê から主語の ebigámbo 8 「言葉, 話(pl.)」を取り除いたものである。

(103)a.[表現] okwíhámú omú:ntu engâro

b.[直訳] 人から手を引く

c.[意味] 見放なす

d.[例文] Omwá:na ô:gu, í:sé akamwihámú engâro. 「あの子は父親が見放した。」

N.B. 「医者が見放す」という場合にも用いられる。

(104)a.[表現] okúgwá n'oibúzâ

b.[直訳] 脚が（草に）絡まって倒れる

c.[意味] 忙しくてテンテコ舞である

(105)a.[表現] Anyaire enkáli, yagimí:sa.

b.[直訳] 彼は小便をし, 最後の一滴を上へ振った

c.[意味] 彼は完全拒否した

N.B. おしっこをして最後の一滴を出し切る時に, それを上方へエイッとやった, という意味である。おしっこを完全に出し切ったということで, 「完全拒否した」と意味につながる。

(106)a.[表現] okukó:mba hapâ:si

b.[直訳] (熱い) アイロンを舐める

- c.[意味] 完全拒否する
 d.[例文] Ako'mbere hapâ:si. 「彼はアイロンを舐めた。」 → 「完全拒否した。」
- (107)a.[表現] okwongéza enkáli harûme
 b.[直訳] 露の上に小便をかける
 c.[意味] 問題に問題を重ねる, 問題をこじらせる
 d.[例文] Ayongirize enkáli harûme. 「彼は露の上に小便をかけた。」 → 「問題をこじらせた。」
- (108)a.[表現] okuté:kámû omú:ntu enkó:ndo y'a'kalêju
 b.[直訳] 人に対して顎を杭にする
 c.[意味] 何をするかずっと見張っておく
- (109)a.[表現] Ebí:ntu birímú zí:nga-hotôka
 b.[直訳] 物事はそれ自体の中に問題がある
 c.[意味] 計画倒れに終わる
- (110)a.[表現] bintagasíze mbisómê
 b.[直訳] それらを私のために温めて頂戴
 c.[意味] 噂を撒き散らす人
 d.[例文] Abá:ntu â:bo bali “bintagasíze mbisómê”. 「あの人たちは “それらを私のために温めて頂戴” だ。」 → 「噂を撒き散らす人たちだ。」
- N.B. 命令形 bintagasíze 「それらを私のために温める」にある「それら」とは ebigâ:mbo 8 「言葉(pl.)」のことである。転じて噂の意味となる。mbisómê は「私がそれらをすすめるように」という接続法の形である。表現 bintagasíze mbisómê 「私がそれらをすすめるように温めて頂戴。」は全体として動詞形であるが、ここでは名詞として、そういう意味の人ということ で用いられている。
- (111)a.[表現] ndora byá:ngê
 b.[直訳] 私は自分のことを見る。
 c.[意味] 自分のことだけを考える人, 利己主義者
 d.[例文] Ó:gu ali ndora byá:ngê. 「アイツは “オレは自分のことだけを見る” だ。」 → 「利己主義者だ。」
- (112)a.[表現] okwetékáhó ekî:ntu
 b.[直訳] 自分を人のものの上に置く
 c.[意味] 人の手柄を自分のものにする
 d.[例文] Bakyetáhô. 「アイツらは人の手柄を自らのものにする。」
- (113)a.[表現] búsó bwa: munyê:rre
 b.[直訳] マングースの額
 c.[意味] 知的レベルの低さ

d.[例文 1] Ó:gu ali búso bwa: munyê:rrre. 「アイツはマンガースの額だ。」 → 「知的レベルが低い。」

e.[例文 2] Tinsobóra, nyówé búso bwa: munyê:rrre. 「オレできないよ。だってオレマンガースの額だもん。」

N.B. búso bwa: munyê:rrre 「マンガースの額」は面積が狭い。つまり前頭葉が発達していない。よって、知的レベルが低い、ということになる。これは(114.e)の例文のように、自分に対しても自虐的に用いられることがある。

(114)a.[表現] okunága i:bá:le omukisákâ

b.[直訳] 藪の中に石を投げ込む

c.[意味] 少しつついて様子を見る

(115)a.[表現] okutanágáhó (o)rukô:ra

b.[直訳] その上に葉っぱを投げない

c.[意味] それにコメントしない, それに応えない

d.[例文] Otanágáhó (o)rukô:ra! 「それにコメントするな。」

N.B. コメントしたりすると、火に油を注ぐようなものである。黙っているのがよい。orukô:ra 11 は ekikô:ra 7, ebikô:ra 8 「葉」のクラスを 11 に変えたもので、「葉」はよく燃えるものの代名詞である。

(116)a.[表現] Omuswí:ja guswe'kere omú:ntu.

b.[直訳] 熱病が人を覆っている。

c.[意味] 熱病に犯されて重体である

N.B. okuswê:ka は「体全体を覆う」ということで、重症性を示している。

(117)a.[表現] okutahú:rra ebya: hê:ru

b.[直訳] 表のことを聞かない

c.[意味] ぐっすり眠る

d.[例文] Tá:kuhú:rra ebya: hê:ru. 「彼は表のことを聞いていない。」 → 「ぐっすり眠っている。」

(118)a.[表現] okukwá:ta omú:ntu hamukôno

b.[直訳] 人の手を握る

c.[意味] 人を大いに助ける

d.[例文] Amukwa'sire hamukôno. 「彼はあの人の手を握った。」 → 「大いに助けた。」

(119)a.[表現] okukóna omú:ntu hamútwê

b.[直訳] 人の頭を軽く叩く

c.[意味] 正しいことをするように人に助言する

d.[例文] Amukonere hamútwê. 「彼はあの子の頭を軽く叩いた。」 → 「助言した。」

N.B. okukôna は「曲げた人指し指で軽く叩く」ことである。強く叩くという意味ではない。

(120)a.[表現] Swé:ka amázî, twí:hé obutúzi.

b.[直訳] ウンコに蓋をし、キノコを採ろう

c.[意味] 悪いことに目をつぶり、いいことだけを見る

N.B. キノコ obutúzi 14 はよくバナナ畑に生えるが、バナナ畑はしばしば人がトイレ代わりに排便するところでもある。キノコの横にウンコがあってもキノコだけを見るという意味である。

(121)a.[表現] okusigíra ênda

b.[直訳] 腹のために残しておく

c.[意味] 全てを口にしない

d.[例文] Kungána n'osigíra ênda. 「喧嘩をしても、腹のために残しておけ。」 → 「何でもかんでも口に出して言うものではない。」

N.B. okusigíra 「～のために残しておく」の代わりに okurekêra 「～のために残しておく」を用いても同じである。Kungána n'orekêra ênda. 「喧嘩をしても、腹のために残しておけ。」

(122)a.[表現] okubí:ma amáizi bisirí:re

b.[直訳] それらが乾くまで水を与えない

c.[意味] 物事の決着がつくまで何も言わない

d.[例文] Bí:mé amáizi bisirí:re! 「それらが乾くまで水を控えろ。」 → 「決着がつくまで何も言うな。」

N.B. okubí:ma は oku-bi-íma 「それらに与えない」.-bi- 「それら」とは ebí:ntu 8 「物事(pl.)」(あるいは ebigámbo 8 「言葉, もめごと(pl.)」)である。最後の okusirí:ra 「焦げる」は、これはここでは「乾く」の意味。せっかく乾きかけているのに、水を指したら元の木阿弥となる。

(123)a.[表現] enfúli y'enyênje

b.[直訳] ゴキブリのペニス

c.[意味] デリケートなもの

d.[例文] Ô:gu, mukwáté mpôra, ali nfúli y'enyênje. 「あの子は慎重に扱わなきゃ。ゴキブリのペニスだからね。」

N.B. enfúli y'enyênje 「ゴキブリのペニス」とは、ゴキブリの尻についている卵の袋のことである。お尻にぶら下がっているのだから、あたかもペニスのように見える。しかし、これは慎重に取り扱わなければならない。粗々しくやると破れて卵が撒き散らされる。

(124)a. [表現] okulí:sa omú:ntu ê:ngo

b. [直訳] 人をヒョウに食わせる

c. [意味] 人を貶める

d. [例文] Otandí:sá ê:ngo! 「君、ぼくをヒョウに食わさないでくれ。」 → 「ぼくを貶めないで。」

N.B. okulí:sa omú:ntu ê:ngo 「人をヒョウに食わせる」とは、例えば裁判で、ありもしないことをあったと偽証することである。

(125)a. [表現] akáhyó ka'mó:gi abíri

b. [直訳] 両刃の小刀

c. [意味] 両方に通じている人

d. [例文] Ali káhyó ka'mó:gi abíri. 「アイツは両刃の小刀だ。」 → 「敵側にも通じている。」

(126)a. [表現] okuté:ka omú:ntu habutendébêke

b. [直訳] 人をふらつき状態に置く

c. [意味] 人を困らせる

d. [例文] Amuteire habutendébêke. 「アイツは彼をふらつき状態に置いた。」 → 「非常に迷惑をかけた。」

N.B. obutendébêke 14 とは、「人が片足などで不安定に立つこと、赤ちゃんなどがふらつきながら立つこと」である。obutengenénê 14 と言っても同じである。okuté:ka omú:ntu habutendébêke 「人をふらつき状態におく」とは、具体的には、例えば子供が問題児で親を困らせる、家族に病人がいてその看病でにっちもさっちも行かない、などである。

(127)a. [表現] ebí:ntu bya' kara:yokya ó:hâ

b. [直訳] 誰を刺すかわからないもの

c. [意味] 運任せのこと

d. [例文] Bínu bí:ntu bya' kara:yokya ó:hâ. 「これは、“それは誰を刺すだろう”の類だ。」 → 「まったく運任せのことだ。」

N.B. kara:yokya ó:hâ?は、字義通りには「それは誰を刺すだろう」（近未来）を意味する文である。Ka-「それ」とあるのは akâ:ntu 12 「物」のことであるが、具体的には蜂を想定している。蜂は誰を刺すかわからない。

(128)a. [表現] Garáma nkwigátê!

b. [直訳] 上を向いて寝ろ、マッサージしてやるから

c. [意味] たやすいこと、冗談ごと

d. [例文] Léká ebí:ntu bya' “garámá nkwigátê!” 「“上を向いて寝ろ、マッサージしてやるから”的なことは止める」 → 「冗談ごとは止める。」

N.B. ベッドで上を向いて寝てマッサージをしてもらうのは簡単なことである。この表現は、例のように、通常、「物事は、そう簡単には行かない」という意味で用いられる。

(129)a. [表現] Amára kúlyá ngu owáitu nibamyétâ.

b. [直訳] 彼のご飯を食べたら、家で人が呼んでいるからと言う。

c. [意味] いいことをしてもらっても感謝をしない人

N.B. 人の家でご飯を食べさせてもらっても、食べ終わるとすぐに、家で人が呼んでいるからと言って感謝もせずに出て行く。

(130)a. [表現] akami:sa-nkâli

b. [直訳] 小便を振り撒くこと

c. [意味] 誇り、自慢

d. [例文 1] Ó:gu ali kami:sa-nkâli. 「アイツは小便振り撒き野郎だ。」 → 「自慢たらたらだ。」

e. [例文 2] Ó:gu áina akami:sa-nkâli. 「アイツはおしっこ掛け野郎だ。」 → 「自慢たらたらだ。」

N.B. 犬がそこいら中におしっこを掛けて自らの存在を誇示するように、おしっこを振り撒くことが、自慢に繋がるのである。例文 1 と 2 は構文が違うだけで同じ意味である。

(131)a. [表現] Ndyamú kí?

b. [直訳] 私はそこから何を食べるんだ。

c. [意味] 何の特典もなし

N.B. 高い地位に就いていると言うと、人は、いろいろ役得があつていいねと言うけれど、そんな物は何もない。

(132)a. [表現] butaróra enyûma

b. [直訳] 後ろを見ずに

c. [意味] すぐさま、一直線に

d. [例文] Bagenzere butaróra enyûma. 「彼らは後ろを見ずに行った。」 → 「一直線に行った。」

(133)a. [表現] ntá:nda yárwô

b. [直訳] そのために包んだ食料

c. [意味] 死ぬべき運命のもの

d. [例文] Ó:gu ali ntá:nda yárwô. 「彼は包んだ食料だ。」 → 「死は避けられない。」

N.B. entá:nda 9, 10 は「包んだ食料」のことである。rwô 11 「それ」は名詞のクラスによる一致により orúfû 11 「死」を指すことは明白である。包んだ食料はいつ食べてもいいように、死はいつでも現れるのである。

(134)a. [表現] okuzî:ka omû:ntu

b. [直訳] 人を埋葬する

c. [意味] 人を容赦なく殴る

d. [通常表現] okuté:ra múnô

e. [例文] Bamuzi:kirégé emî:go. 「彼らは彼を容赦なく鞭で殴った。」

N.B. okuzî:ka 「埋葬する」は「容赦なく殴る」の意味である。

(135)a. [表現 1] okwemeré:za okugúru kúmû (nka akatûzi)

b. [表現 2] okwemé:r:ra hakugúru kúmû (nka akatûzi)

c. [直訳] (キノコのように) 一本足で立つ

d. [意味] 孤立無援である

e. [例文] Ó:gu ayemer:re hakugúru kúmû. 「彼は一本足で立っている。」 → 「孤立無援である。」

N.B. 「一本足で立つ」は、手段を使役形で表現するか（表現 1）、適用形で表現するか（表現 2）によって 2 つの言い方がある。意味は同じである。例文は表現 2 の適用文である。

(136)a. [表現] okúlyá obuhúkâ

b. [直訳] 虫を幾つも食べる

c. [意味] 癩癩を起す

d. [例文] Jóni ali:re obuhúkâ. 「ジョンは虫を幾つも食べた。」 → 「癩癩を起している。」

N.B. 「彼が癩癩を起しているのは、幾つも虫を食べたせいだ。」と言われる。obuhúkâ 14 は ekihúka 7, ebihúka 8 「虫」をクラス 14 に置いたもので小さな虫の複数を指す。

(137)a. [表現] Akaniera omusorô:ro.

b. [直訳] 彼は omusorô:ro の草の上でクソをした。（そしてそのクソが自分の上に降りかかってきた。）

c. [意味] 聞き分けのない奴

d. [例文] Nyantagambîrwa, akaniera omusorô:ro. 「彼は聞き分けのない奴だ。omusorô:ro の草の上でクソをした。」

N.B. omusorô:ro 3, emisorô:ro 4 というのは 1.5m ぐらいの草で、箒の材料によく用いられる。野糞をする時、人に見られないように、これが群生している所に行って用を足す。用を足す時、この草を踏みつけないといけないが、用を足し終わってそこを離れようとする瞬間、踏みつけられていた草が起き上がって、便が自分の上に振りかかってくるのである。これは人の忠告を聞かずに物事をやろうとする者の知恵の浅はかさを示す例として用いられる。人は、どんな事

でも友人・親の助言を求めるべきだ。勝手にやっていると後でひどいことになる。

(138)a. [表現] Barwé:nda.

b. [直訳] 彼らはそれを好む。

c. [意味] 問題を起す人だ

d. [例文] Ó:gu ali barwé:nda. 「彼は, “彼らはそれを好む” タイプの人間だ。」
→ 「トラブルメーカーだ。」

e. [例文] Barwé:nda. Akata:hya empísi obugényi. 「彼はトラブルメーカーだ。パーティーにハイエナを入れちゃった。」

N.B. 「それを好む」の -ru- 11 「それ」は orúfũ 11 「死」を意味する。ここでは比喩的に「問題」の意味で使われている。

(139)a. [表現] okuté:ra ekijíko

b. [直訳] 匙を使う

c. [意味] 料理がうまい

d. [例文] Jó:ni amanyire kuté:ra ekijíko. 「ジョンは匙加減を知っている。」→ 「料理がうまい。」

(140)a. [表現] okunága omú:ntu omumáhwâ (hamáhwâ)

b. [直訳] 人を茨の中に投げ入れる

c. [意味] 人を困らせる

d. [例文] Jó:ni, werí:ndé Pí:ta, atakunága omumáhwâ! 「ジョン, ピーターが君を茨の中に投げ入れないように気を付けて。」→ 「困らせないよう気を付けて。」

N.B. 「茨の中に」は omumáhwâ と言っても hamáhwâ と言っても意味は同じである。

(141)a. [表現] okuhandí:ka hamáizi

b. [直訳] 水の上に文字を書く

c. [意味] 何回言っても相手に通じないこと, 馬耳東風

d. [例文] Ahanire Jó:ni, báitu ali nka ahandikí:re hamáizi. 「彼はジョンに注意したが, それはまるで水の上に文字を書くようなものだ。」

(142)a. [表現] okuté:ra akabbâli

b. [直訳] 互い相手に触る遊びをする

c. [意味] 見返りを求めて行為をする

d. [例文] Jó:ni atire Pí:ta akabbâli, yamuha egâ:li. 「ジョンは見返りを期待してピーターに自転車を贈った。」

N.B. okuté:ra akabbâli とは一種, 鬼ごっこのような遊びである。相手に触って一目散に逃げる。すると触られた方は, 触り返そうと触った相手を追いかける。

これを繰り返すのである。ここでは、相手がこちらを触り返すという期待のもと相手を触るのである。

(143)a. [表現] okukwá:ta omú:ntu halî:so (omulî:so)

b. [直訳] 人の目に触る

c. [意味] ひどいことをする

d. [例文] Amukwa'sire halî:so. 「ヤツは彼の目を触った。」 → 「ひどいことをした。」

N.B. 目とは脳に繋がる重要な器官である。その中に指を突っ込むなどということは酷い、また危険な行為である。halî:so と omulî:so はどちらも「目の中」を意味する副詞的表現である。

4. 終わりに

本稿は、ウガンダのニョロ語について、婉曲・比喩表現を見てきた。このようなことは通常の語彙集には書きにくいことである。もし書くなら、それだけで1冊の本が必要となるであろう。本稿は、もちろんニョロ語の婉曲・比喩表現を全て集めたわけではない。そのための第一歩と位置付けたい。

なお、ここには、いわゆる格言・諺は含めていない。例えば(144)のような例である。

(144)a. [表現] Ow'énjú y'obunyá:nsí takungá:nâ.

b. [直訳] 草ぶき屋根の人は喧嘩をしない。

c. [意味] 喧嘩すると仕返しに家に火をつけられるかもしれない。弱みを持っているは喧嘩ができない。

もし(144)が以上述べてきた意味で婉曲・比喩表現だとすると、Ow'énjú y'obunyá:nsi 「草ぶき屋根の人」が「弱みを持っている人」の意味だということになる。問題は、takungá:nâ 「喧嘩をしない」というもう1つの節が後に続くということである。このように、諺では通常、節あるいは句が、主部-述部のように2つあるのに対して、婉曲・比喩表現では節・句は1つである。この点が格言・諺と婉曲・比喩表現との大きな違いである。格言・諺については、改めて稿を起す。

参 考 文 献